

勢和小学校だより



明日も行きたくなる勢和小 ～楽しく笑って過ごせるように、やって、考え、工夫しよう～

発行日：令和7年9月19日 第19号

「いじめは、どんな理由があってもいけないこと」 そう思うが100%

今年度の多気町内小学校の6年生全員が、「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う。」と回答していることが、全国学力・学習状況調査の結果から分かりました。

「いじめられる理由がある。」という意見を聞くことがあります。しかし、今年度の多気町内6年生全員は、例えば、人をからかったり馬鹿にしたりしているからと言って、その人の物を隠したり壊したりするようないじめをしてはいけないと考えています。

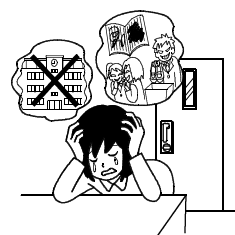
では、どうしようと子どもたちは考えているのでしょうか。本校の6年生の考えは以下のとおりです。
○いじめられたからと言って、いじめをしていいわ

けではない。周りの人に相談する。

○親や先生に言う。

○相手が気づいていないかもしれないので、嫌なことがあれば相手に直接伝える。

6年生が考えているこれらの意見は、新たないじめを未然に防ぎ、そしてもし起こってしまったとしても、解決へと導くための「3つの力」を示しています。「相談する力」、「伝える力」、そして「思いやる力」。これらは、いじめをなくすためだけでなく、これから誰にとっても、人より良い関係を築くために必要な力です。



子どもたちが安心・安全に学校生活を送れるための環境整備に

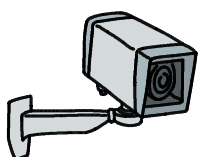
令和8年度の学校施設・設備に関する予算について、多気町に要望する主なものを紹介します。

①大木の伐採・剪定、飼育小屋の撤去

今年度、勢和中で坂沿いの樹木が倒れたように、本校飼育小屋近くの大木の一部が枯れ始め、台風や強風時に枝が折れて危険です。また10年以上使っていない2つの飼育小屋を撤去し、植物を観察したり昆虫を捕まえたりする児童にとっての安全な遊び場や学び場を整備したいと考えています。



②防犯カメラの設置



本校校舎は、悪意のある者が侵入しようと思えば簡単に侵入できる構造のため、ピロティ、体育館への通路、昇降口、体育館駐車場、校舎裏駐車場など校舎の周囲に死角がなくなるように防犯カメラを配置したいです。

③漏電箇所の修繕

中部保安協会による点検で、数年前から「絶縁不良」の判定が出ています。喫緊に対応が必要というわけではありませんが、漏電火災を防止するためにも、絶縁箇所などの点検と修繕が必要です。

これらの他にも子どもたちが安全・安心に生活できる環境整備や、教職員が快適に働ける労働環境整備のために複数の要望をしています。

生活委員会の自主的な見守り

廊下走りを減らして安全な学校を作りたいという思いから、生活委員会の人たちが8日(月)から自主的に廊下の見守りをしています。走っている人を見かけると「走ると危ないよ。」と言葉をかけていましたが、初日は15分休みの段階で延べ70人くらいの人たちが走っていたそうです。

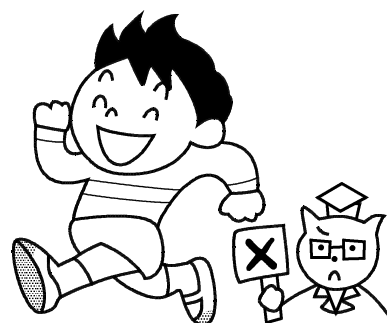
この様子について生活委員会の人たちに話を聞くと

○一人でも走る人をなくせたら嬉しい。

○取組をすることで、階段でこけたり落ちたりしないようになってくれたらいい。

○意識せず走ってしまう癖がある人がいるので、なくしていきたい。

などを考えているようでした。



明日も行きたくなる勢和小に向け、やって、考え、工夫する生活委員会には大いに期待しています。

「心情」「要旨」 ～思考を深めるために学習用語を使いこなそう～

現在、各学年で使用している国語の教科書には、学習に用いる様々な言葉が紹介されています。例えば、5年生の教科書『銀河』の巻末には、「心情」「要旨」「根拠」「事例」「山場」といった言葉が学習用語として掲載されています。これらの言葉は、思考を深める上で非常に重要です。ただ覚えるだけでなく、日々の学習の中で使いこなせるようになることが大切です。

教科書では、心情を表す言葉も紹介されています。「高ぶる」「声がはずむ」「胸が高鳴る」「気が重い」「苦々しい」など、自分の心情を正確に表す言葉を使いこなせるようになると、誤解が生まれにくくなり、コミュニケーションがより円滑になります。

最近では、言葉の背景にある「雰囲気」に頼ったコミュニケーションが増え、「分かったつもり」でいたことが、実は相手と食い違っており、トラブルに発展してしまうケースも見られます。特に「やばい」という言葉は、その場の状況によって意味合いが大きく変わるため、SNSなど文字によるコミュニケーションには不向きな場合があります。

子どもたちが新しい言葉を獲得できるようにするためには、日頃から意識的に使う機会を与える必要があります。考えを深め、円滑なコミュニケーションを促すためにも、言葉の指導はあらゆる教科や領域を通じて継続的に行っていきます。